

ゼロプロを導入したきっかけは？

岩田 「お口から食べることが難しくなる」ということは、「その人らしい日常が少しずつ遠のいていく」ことでもあります。当苑では「幸せを支える栄養」を目標に掲げ、食べることを大切にしてきました。誤嚥性肺炎予防として、1日3回の口腔ケアの徹底、パタカラ体操の実施、食事の姿勢の見直しなど、さまざまな取り組みを重ねてきました。

しかし、それでも誤嚥性肺炎はなくならず、入退院を繰り返す入居者様の姿を前に「食べ続けること」と「安全を優先すること」の間で葛藤していたときに出会ったのが「ゼロプロ」です。介護の歯科医師瀧内先生のYouTube配信が非常にわかりやすく、その「誤嚥性肺炎はゼロにできる」という視点に大きな衝撃を受けました。さらに学びを深める中で口腔評価ツールであるOHATの存在を知りました。予防できるという考え方で評価できるという手法、その両方に出会ったことで「学べば変えられる」という確信につながりました。誤嚥性肺炎をゼロにするための知識や技術を高める術があるのなら、このタイミングだと思い、ゼロプロ導入を決意しました。



ゼロプロ導入から1年半、現在の状況を教えてください。

岩田 やっと出航したという実感があります。新たな取り組みには困難が伴うことを前提に、最初の1年間は「学びの期間」と位置づけました。決して平坦な道ではありませんでしたが、先にある未来を見据えて焦ること無くじっくりと過程を大切にできたことは、良かったと感じています。介護リーダーの経験がある福島歯科衛生士の存在は大きく、多職種間で連携し、丁寧に積み重ねることができました。

福島 11年間介護福祉士として働いてきた極楽苑で歯科衛生士として携わることが決まり、ゼロプロのお話を聞いた際、「誤嚥性肺炎って本当にゼロにできるの」と半信半疑でした。しかし口腔ケアと全身状態の関連性について知れば知るほど、すごい世界だと考えるようになりました。入居者様の命を守ることにするだけでなく、職員の自信ややりがい、施設全体の運営や社会貢献にまで広がる。今では、「ゼロプロはみんなの幸せにつながる」そう確信しています。しかし明確なビジョンがあるのに、その見えていないものが職員になかなか伝わらない、もどかしさがあります。

どういった苦勞がありましたか？

岩田 研修の中で、「お互いのお口を見合って研修」という衝撃が、職員全体に走りましたね。ゼロプロの意図や意義を全職員にどう落とし込むか、という点で苦勞しました。理念として理解することと、日々のケアの中で実践することの間には隔たり



歯科衛生士 福島 由貴さま

があり、研修の機会を通じて全職員に繰り返し伝え続けることを大切にしました。確かに普段自分の口の中を見られることはないのに抵抗があることは理解できましたが、専門職としての理解を深めるために必要なプロセスであると思えました。実際に口腔ケアを「受ける側」を体験することで、入居者様の気持ちに寄り添う多くの気づきが生まれたように感じます。ペアリングの配慮や選択の自由を設けるなど、職員の心理的負担を軽減しながら進めていきました。

ホスピタリティは入居者様に対してだけでなく、職員にも向けられるべきものです。

丁寧に寄り添いながら言葉を尽くすことが大切です。

施設長 岩田 佳奈子さま



福島 私が職員に伝えたいこととして、ゼロプロにおいては口腔ケアのみに焦点を当てるのではなく、「施設全体の業務を減らす」ことも目的としているということです。誤嚥性肺炎を予防し、しっかり食事を摂ることで肺炎以外の病気にもかかりにくくする。入退院を繰り返す入居者様が減るとそれに付随する業務も減ることになります。

社会福祉法人 高針福祉会 特別養護老人ホーム 極楽苑さま

東海地方初のゼロプロ参加施設です。特養では珍しい看護師 24 時間常駐の医療フロアを併設し、重度者にもゼロプロを実施しています。



昨今どこの施設も職員は目の回るほど忙しく働いておられるのではないのでしょうか。通常業務に加え、発熱や受診などの対応に始まり、入退院・入退去、空床活用に伴う様々な業務等、実は膨大なんです。口腔ケアを通して、最初は手間と感じるかもしれませんが、業務の効率化を図ることができる。それを職員には自分ごととして捉えて貰えたら、もっと主体的に動けるようになるのではないかと思います。

岩田 職員の身体的・精神的な負担を軽減しながら、入居者様の穏やかな暮らしを守ることができる。その両立が実現できるのであれば、これほど意義のある取り組みはないと考えています。

これからどのように進めていきたいですか？

福島 極楽苑には通常フロアと医療フロアがあり、ゼロプロの導入は通常フロアから始めました。医療フロアには医療的ケアが必要なお看取り期の方も入居しており、より専門的な口腔ケアが必要になるため、今後はそちらにも力を入れていきたい

です。これまでの通常フロアでの取り組みを踏まえると、効果は目に見えて出るのではないかと考えています。

岩田 口腔ケア自体は、ゼロプロ導入前から日常的に行ってきたものです。だからこそ、同じ時間をかけるのであるならば、より効果的に根拠に基づいた方法を選択することが重要だと考えています。これまでは「知らなかったこと」でも、知る機会を得ることで意識は確実に変わります。

最近では「OHATの点数が良くなっている」といった声も職員から上がり、徐々に意識が高まっているのではないかなと感じています。新しい取り組みをスタンダードにするのは決して簡単なことではないですが、重要なことほど時間をかけて確立していく価値があります。私たちは「命を守るケア」を実践しながら、大きな未来へと歩みを進めています。

check!!

公式 LINE、instagram、YouTubeにて情報を発信しています。

SNS



最後までお読みいただき、ありがとうございます。今回は東海地区初の施設様ということもあり、新年度第1号として、誌面全般に掲載させて頂きました！取材へのご協力、ありがとうございました。

株式会社 クロスケアデンタル

編集担当：川谷

お問合せ：092-986-9600

info@crosscare-dental.jp

